

普及活動情勢報告（平成29年4月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

今シーズンの組織活動やトマト栽培に向けて ～「大豊とまと」が臨時総会を開催～



3月25日に大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織化された「大豊とまと」の臨時総会を大豊町山村農業実践センターで開催し、農家8人が参加しました。会では、関西での展示会や有機農産物販売調査の結果、今年度の各農家の栽培計画や組織活動計画等を検討しました。

普及所からは天敵活用の実証事例などの栽培技術情報を提供し、展示会等の調査報告や今年度の活動計画について助言しました。

農家からは、「昨年と異なる時期に先進地視察を行い、栽培技術を高めていきたい」「昨年の減収要因を改善し、収量アップを目指したい」等の声がありました。

普及所では、組織活動や各農家の栽培について、引き続き支援していく予定です。

中山間農業複合経営拠点（大豊町）をバックアップ！



普及所の支援について提案

4月6日、普及所と大豊町の複合経営拠点である(株)大豊ゆとりファームとの連絡会を大豊町農業センターで行いました。普及所や(株)大豊町ゆとりファーム、町の関係職員7人が参加し、担い手の育成、経営改善について検討しました。

普及所からは、就農希望者の募集方法、効果的な研修実施や経営改善に向けた支援について提案しました。経営改善については、(株)大豊町ゆとりファームから「スマートフォンを活用して栽培状況の確認や記帳ができないか」といった意見も出されました。

今後は定期的に連絡会を持ち、栽培状況や経営内容を共有し、今回要望のあった内容等の協議を含め、担い手育成や販売額向上につながるよう重点的に支援していきます。

直販野菜の勉強会を開催



勉強会の様子

4月12日に土佐町の伊勢川集会所で、直販野菜の勉強会を開催しました。

ねらいは、拠点となる生産者の育成であり、今回は、呼びかけに応じた10人を対象に、栽培マニュアルの提供と病害防除技術の研修を行いました。

初めて開催したことから生産者の要望に添う内容になったか不安でしたが、「勉強になった。今後も続けたい」という反応で、年度内に6回程度開催することになりました。

今後は、他の地区にも呼びかけて、管内3グループ程度で勉強会を開催したいと考えています。

「大豊とまと」の生産安定に向けた巡回指導



育苗状況の確認

4月13日に大豊町の有機栽培トマト生産者の8ほ場を巡回しました。生産者は4月下旬以降の定植に向けて準備中で、育苗や基肥畝立ての状況を確認しました。

普及所からは栽培終了時に緑肥を播種し、前作の肥料を吸収させてほ場に還元する方法について提案しました。

生産者からは、「厳寒期でも緑肥（ライ麦）がちゃんと生育出来るのか」「定植時の窒素飢餓がおこらないか」などを心配する声がありましたが、秋以降に実証ほを設置することになりました。

普及所では、栽培技術の確立による生産安定を目指し、引き続き支援していきます。

職員総出で酒米現地試験のための播種



播種の様子

4月19日、普及所は所内でポット苗箱14枚に酒米現地試験のための播種を行いました。一穴に3～5粒(448穴/枚)の種を播く時間と根気のいる作業ですが、職員9人が協力して2時間程度で作業を終わらせることが出来ました。

現在、県内の酒米(酒造適性米)は、「土佐錦」、「アキツホ」、「フクヒカリ」が栽培されていますが、県外産に比べて割高(酒造適性と価格のバランスが悪い)であるため、県産米の使用率が25%程度と低いことが課題となっています。

今年は、酒造適性(大粒、低タンパク、米が溶けやすい)に優れた多収性品種を選定するため、農業技術センターで有望とされている多収性品種の「やまだわら」、「とよめき」について現地試験を行います。

今後、普及所は生育・収量・品質調査を行い、現地適応性について評価していきます。